

～環境学館いずみボラボランティアスタッフによる「いずみガイド」～

## 8月のデキゴト

### はじめに

自然塾の2回目は、高麗川の魚の観察会です。よく晴れた暑い日でしたが、24名の参加がありました。魚大好き中学生とそのお父さんもゲスト参加されました。講師は環境総合研究所の久保武彦先生と若い藤本さん、長崎さんでした。

今日の観察場所は戸口橋から上流です。

まずは、捕り方を教えて頂きました。たも網をしっかりと川底に着けて上流から下流に足で追い込みます。ねらい目は、岸辺の草が茂っているところだそうです。

### 調査開始

勢いよく川に足を入れましたが思ったよりも冷たく一瞬たじろぎましたがそんなことは言ってられません。

ただ、去年の19号台風で川の様相が様変わりして、ほとんどが緩い浅い溜まりで、岸辺にも草が生えているところも少なく狙う場所が限られます。

カワリヌマエビは沢山捕れますが、水は澄んでいて泳いでいる魚の姿は見えるもののなかなか捕れません。それでも予定の時間を過ぎてもしっかりと、最終的には写真のようにそこそこの成果となりました。中学生の活躍が凄かったです。

### 捕れた種

捕れた種は、タモロコ、スナゴカマツカ、オイカワ、ニゴイ、ミナミメダカ、アブラハヤ、カワムツ、ムサシノジュズカケハゼ、トウヨシノボリ、カジカ、ナマズ、大陸型ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、コクチバスと魚15種。いつもだともっとシマドジョウが捕れるのですが、今回少ないです。草のある河岸が少ないためかハゼ類とアブラハヤも少ないです。ジュズカケハゼとアブラハヤは湧水がないと生きられない魚で、湧水が多い高麗川を代表する魚です。ちょっと少ないのが気になりました。今日採れたドジョウは外来のようですが、在来のドジョウは貴重種になっているそうです。ミナミメダカに続き身近だった魚が少なくなっているのですね。メダカの問題はもっと深刻で、飼育されている外来のメダカを放すので、在来種の種の保存が危うくなっているそうです。

また、コクチバスが昨年に続き捕れました。オイカワやジュズカケハゼなど外来種を食べてしまいます。今年は投網で駆除をするつもりでしたがかなわなかったのが残念です。



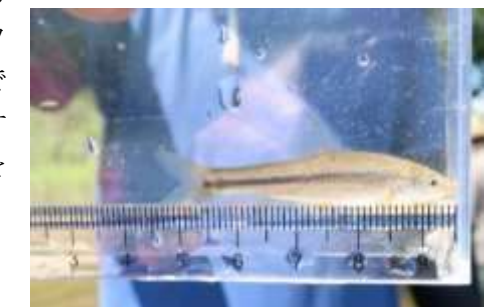
講師の方々



魚とりのコツ



今日の成果



タモロコ

コクチバスは美味しいのでぜひ捕まえたら食べて下さいと講師から話がありました。特定外来種なのでリリースできません。

エビ類はカワリヌマエビ、スジエビ、アメリカザリガニです。アメリカザリガニはカワムツの稚魚を入れたところ、すぐに捕まえて食べ始めたのはビックリです。カワリヌマエビは外来種です。本来はヌカエビがいたのですが、今日は一匹も捕れませんでした。生存競争に負けました。

ヤゴもハグロトンボ、オナガサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ、アオサナエも捕れました。ヘビトンボ、ナベブタムシもいました。写真の細いのがハグロトンボ、小さいのがオナガサナエです。

アオダイショウも見せてもらえました。笑顔の藤本さんですが、実は袋から出す時に噛まれてます。流石調査の専門家、それでも笑顔です。へびを触る機会はないので藤本さんの周りに人の輪ができました。貴重な体験ができました。

講師が説明し終えても質問が続きます。小さな子供たちも集まってきて、ザリガニを恐る恐る触ったりできました。後ろ髪をひかれる思いで河原から戻りました。

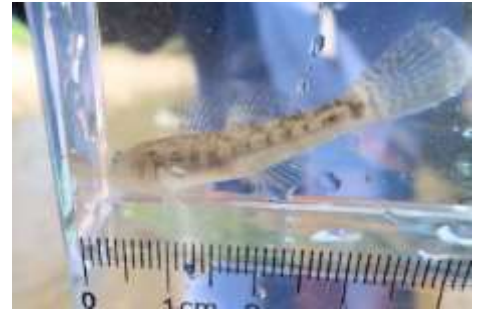
#### 最後に

いずみに戻ってから、今日採取できた魚の確認をしました。初めて参加の中学生からも発言が飛び出しました。魚のことは黙ってられないのでしょうか。好きなのが良くわかりました。今後も参加してくれると嬉しいです。

塾の主なメンバーは60才を越えているのでしょうか。中学生には負けますがメンバーの皆さんも積極的に川の中を楽しんでいらっしやいました。浅いようでもパンツまで濡れた人が多かったと思います。60才を過ぎてから川に入ってパンツを濡らしながら魚を追いかける姿は見ていて頼もしかったです。これでまた高麗川が身近な川になって頂ければ幸いです。(YI)



アオダイショウ



ジュズカケハゼ



トウヨシノボリ



オイカワ



ヤゴ



コクチバス

